

令和4年度授業改善推進プラン

清瀬市立清瀬第七小学校 第4学年

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>熟語の使い方や指示語・接続語など言語に関する基本的な知識・技能を定着させること。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えさせること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な言語活動を授業に取り入れたり、自主学習の宿題において個々の課題や興味に合わせた家庭学習を促したりすることで、日常的に言葉を使う習慣を付ける。</li> <li>段落ごとの内容を踏まえた上で、段落どうしの関係を確かめる。</li> </ul>	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字学習の際に熟語の意味を調べさせたり、文章を書く際に言葉の用い方を例示したりすることで、作文などで使える言葉が増えたことから、有効であったと考える。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>説明文の学習において、組み立てを捉えた上で段落ごとに読み取ることで、ほとんどの児童が内容を捉えることができた。課題としては、文章の要点を捉えることが難しい児童がいるため、文章を読み返したり印を付けたりするように指導を続ける。</li> </ul>
社会	<p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料から必要な情報を読み取り、社会的事象の相互の関連を捉えさせること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末を活用し、児童が資料を目にする機会を増やす。</li> <li>グラフや表の読み方(表題、縦軸、横軸、全体を見て言えること、比較して考えられることなど)を繰り返し指導する。</li> <li>算数や総合的な学習など他教科とも関連付け、繰り返し資料を読み取る練習をさせる。</li> </ul>	<p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グラフや表の読み方を繰り返し指導することで、資料から必要な情報を読み取る力を高めることができた。</li> <li>資料から数値の大小については読み取れても、資料全体から分かることや複数の資料を比較することについて難しい様子が見られた。今後も継続して指導を行う。</li> </ul>
算数	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>実感を伴った量感覚を身につけさせるとともに、長さや重さの単位の換算ができるようにすること。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習事項を基に、図や式、言葉を使って自分の考えをわかりやすく表現させること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体物の操作や身の回りの事象を観察することを通して、量の大きさについて感覚を身に付け、実感を伴った理解ができるようにする。</li> <li>単位の換算については、法則性を見つける活動を行い、朝学習などで定着を図る。</li> <li>表現力を伸ばすために、友達の考えを説明する学習活動を授業の中に意図的に取り入れる。</li> </ul>	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>具体物を操作して考えたり生活の場面と結びつけながら考えたりしたことは、知識の定着につながった。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを友達に伝えることができる児童が増えた。また、比較検討の際は、違いを見つけて説明することができるようになってきたので、今後も指導を続けていく。</li> </ul>
理科	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>器具や機器などを正しく扱いながら実験や観察をし、結果を分かりやすく記録させること。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想できるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めて使う器具や機器の使用方法を教科書の巻末を参考に、確実に指導する。</li> <li>ノートやタブレット機器を活用し、結果を表やグラフにわかりやすく記録することを繰り返す。</li> <li>問題解決の過程において必ず予想を立ててから実験・観察するように習慣付ける。その際にどこに着目したらよいか示したり、自分の生活経験を振り返ったりさせる。</li> </ul>	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ほぼすべての児童に器具や機器などを正しく扱って実験や観察をする力を身に付けさせることができた。ノートはよく活用できたが、タブレットを使った記録はできなかったため、今後も有効な活用方法を考える必要がある。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>8割の児童に自ら予想や仮説をたてる力をつけることができた。2割の児童は、教師側から既習事項やヒントとなる生活経験の声かけを行うことで、自分の考えをもたせることができた。</li> </ul>
音楽	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>互いの歌声や副次的な旋律、伴奏を聴いて、声を合わせて歌う技能を身に付けさせること。</li> <li>音色や響きに気を付けて、旋律楽器及び打楽器を演奏する技能を身に付けさせること。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の仕組みを用いて、どのようにまとまりを意識した音楽をつくるかについて思いや意図をもつこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>録音した自分たちの歌声を聴いたり、友達の歌を聴き合いアドバイスをする活動を多く取り入れる。</li> <li>教師や友達の演奏を聴いたり見たりすることで、楽器の適切な演奏の仕方を身に付けることができるようにする。</li> <li>動画を活用し、正しい楽器の奏法を学べるようにする。</li> <li>音楽の仕組みを生かした音やフレーズには、どのようなよさや面白さがあるのかについて、全体で共有する場を設けるようにする。</li> <li>グループでつくった音楽を聴き合い、よさを伝え合う活動を設定する。</li> </ul>	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>録音や録画したのを見て、歌い方について話し合う活動を取り入れたことで声を合わせて歌う技能を身に付けさせることができた。動画を活用したことが有効だった。</li> <li>音色や響きに気を付けながら、正しい奏法で演奏する技能を身に付けることができた。互いの演奏を聴き合ったり、動画を活用したりしたことが有効だった。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>音楽の仕組みを用いて、まとまりのある旋律を考えることができた。タブレットを活用し、全体うあグループで旋律を共有し話し合いながら音楽づくりをしたことが有効だった。</li> </ul>
図画工作	<p>(知識・技能)</p> <p>今まで習ってきた技能を使い、道具や材料の特徴を理解して、表現方法を工夫しながら制作に取り組ませる。</p>	<p>木工では、既習の釘打ちやボンドに加え、のこぎりや彫刻刀などを安全に使えるように、安全指導と道具の使い方の指導を徹底する。また、制作に取り掛かる前のイメージシートで、制作手順や道具を使う計画を建てさせ、見通しを持たせてから制作に取り組ませる。</p>	<p>木工では、今まで習ってきた用具や方法を使って思考錯誤させることができた。平面作品を作る場面では、個人絵の具の使い方が定着していないという課題があるため継続して指導していく。</p>
体育	<p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発達段階相応の技能を身に付けさせること。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の課題を見付け、その課題を解決するための活動を工夫するとともに考えたことを友達に伝えさせること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>体づくり運動やサーキットトレーニングを授業の導入で取り入れることで、基本的な動きや技能を身に付けさせる。</li> <li>タブレット端末を活用して自分の動きを振り返ったり、友達の動きを参考にしたりする。そして、自分の課題を見付け、気付いたことを友達に伝えることで、技能を高めることに生かせるように指導する。</li> <li>技能を高めるための場を多く用意し、自分に合った場を選んで個々の課題に取り組めるようにする。</li> </ul>	<p>&lt;技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ほとんどの児童が発達段階に応じた技能を身に付けることができた。しかし、器械運動では、成長に合わせて身体の動かし方を工夫することが難しい児童がいたため、運動の場を工夫したり補助をしたりすることを行った。</li> </ul> <p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己の課題を見付け、その課題に合った場を選んだり、工夫したりすることができるようになった。タブレット端末を活用し、児童がお手本の動きや自分の動きを見直すことができたため、有効であったと考える。</li> </ul>
道徳	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が問題意識をもち、主体的に考え、話し合えるようにすること。</li> <li>自分と異なる意見も受け入れ、ねらいとする道徳的価値について考えを深めさせること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教材文を自分事として捉えさせるために、導入でねらいとする価値項目に関係のある発問をしたり、写真や映像などを活用して教材に対する興味を喚起したりする。</li> <li>それぞれの立場の考えに触れ、いろいろな考えがあることに気付かせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>手立てを行うことで、自分の生活や身の回りのことを想起して考えさせることができた。</li> <li>他者の考えを聞いたり、さらに自分の考えと向き合ったりする時間を確保することで、様々な考えに触れさせることができた。</li> </ul>
外国語活動	<p>&lt;知識・技能&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませること。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に外国語を用いてコミュニケーションをはかろうとする態度を養うこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ALTとのやり取りや映像や音声を活用し、外国語を聞いたり、話したりする機会をたくさん与え、教師や友達とのやり取りを通して英語に慣れ親しませるようにする。</li> <li>教師自身が積極的に英語を用いてALTとコミュニケーションをとったり、デモンストレーションを行ったりして、児童が安心して表現できる雰囲気づくりをする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>友達との自由な交流場面での活動が活発な様子から、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませ、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養うことができた。</li> </ul>
総合的な学習の時間	<p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>必要な情報を収集し、蓄積させること。</li> <li>集めた情報を比較したり、関連付けたりさせること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>タブレット端末を活用して、書くことが苦手な児童も情報を記録し、スライドにまとめ蓄積できるようにする。</li> <li>学習過程の終盤に、情報を整理・分析しやすくするために、課題設定の際に図書館や図書資料を活用して予備知識を提示したり、予想を立てさせたりする。</li> <li>調べる項目を提示し、見通しをもたせることで情報を比較したり、関連させたりできるように促す。</li> </ul>	<p>&lt;思考・判断・表現&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>8割の児童に必要な情報を収集・蓄積する力を身に付けさせることができた。また、図書館資料、インターネット等、複数の手段を使用して情報を集め、それらを比較する活動を取り入れたことで、自分にとって必要なものを選ぶ力を高めさせることができた。中央図書館の貸し出しとタブレット端末の活用は、有効だった。</li> </ul>

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。